

第三者審査

「富士通グループ環境報告書2014」および「富士通グループCSR報告書2014(詳細版)」は、開示内容の信頼性確保のため第三者機関ビューローベリタスジャパン株式会社による審査を受け、検証報告書を掲載しています。

温室効果ガス排出量検証報告書

富士通株式会社 御中



2014年7月15日



ビューローベリタスジャパン株式会社
システム認証事業本部

ビューローベリタスジャパン(以下、ビューローベリタス)は、富士通グループ環境報告書2014において富士通株式会社(以下、富士通)により報告される2013年度の温室効果ガス排出量に対して、限定的保証業務を行った。

1. 検証範囲
富士通はビューローベリタスに対し、以下の温室効果ガス排出量情報の正確性について検証を行うことを依頼した。

- 1) スコープ1及びスコープ2 温室効果ガス排出量
 - ・富士通及び国内グループ会社23社、海外グループ会社3社の事業活動に伴う、2013年4月1日から2014年3月31日の期間におけるエネルギー起源CO₂排出量
 - ・半導体製造を行う富士通グループ国内3拠点の事業活動に伴う、2013年4月1日から2014年3月31日の期間におけるHFC、PFC、SF₆、NF₃排出量
- 2) スコープ3 温室効果ガス排出量(GHG Protocol Corporate Value Chain (Scope 3) Accounting and Reporting Standardに基づく)
 - ・富士通及び国内グループ会社26社が外部に委託した物流に伴う、2013年4月1日から2014年3月31日の期間のCO₂排出量

2. 検証方法
ビューローベリタスは、ISO 14064-3(2006): Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the validation and verification of greenhouse gas assertionsの要求事項に従って検証を行った。
ビューローベリタスは、限定的保証の一環として以下の活動を行った。

- ・温室効果ガス排出量を特定し算定する責任のある富士通の関係者へのインタビュー
- ・温室効果ガス排出量を決定するために用いられた情報に対する、富士通の情報システムと収集・集計・分析方法の確認
- ・温室効果ガス排出量の正確性を確認するための元データのサンプル監査

3. 結論
実施した検証作業とプロセスによれば、温室効果ガス主張が以下であることを示す証拠は認められなかった。

- ・著しく正確性を欠き、対象範囲における温室効果ガス排出量データを適切に表していない
- ・富士通が定めた温室効果ガス排出量算定方法に従って作成されていない

検証された温室効果ガス排出量		
スコープ1	スコープ2	スコープ3
216,000 t-CO ₂ e	733,000 t-CO ₂ e	58,000 t-CO ₂ e

【独立性、公平性及び方量の声明】
ビューローベリタスは、独立保証業務の提供に180年の歴史を持つ、品質・健康・安全・社会・環境管理に特化した独立の専門サービス会社です。検証チームメンバーは、当該任務の要求の範囲外において、富士通とのビジネス上の関係は有していません。ビューローベリタスは、日常業務活動におけるスタッフの厳格な倫理基準を維持するため、倫理規定を導入しています。検証チームは、環境・社会・倫理・健康・安全の情報・システム・プロセスに対する保証について広範囲な経験を有しています。

富士通グループCSR報告書2014(詳細版)
富士通グループ環境報告書2014
第三者検証報告

富士通株式会社 御中



2014年7月17日



ビューローベリタスジャパン株式会社
システム認証事業本部

ビューローベリタスジャパン株式会社(以下、ビューローベリタス)は、富士通株式会社(以下、富士通)の責任において作成された「富士通グループCSR報告書2014(詳細版)」「富士通グループ環境報告書2014」(以下、レポート)に記載されるサステナビリティパフォーマンス指標のうち、富士通から要請のあったものに対して検証及びレビューを実施し、富士通から提示された情報に基づきGRIのアプリケーションレベルのチェックを実施した。

検証の目的は、レポートに記載されるサステナビリティパフォーマンス指標の信頼性及び正確性を客観的証拠に基づき評価し、独立した立場から限定的保証意見を示すことである。レビューの目的は、レポートに記載されるサステナビリティパフォーマンス指標の信頼性及び正確性を客観的証拠に基づき評価し、独立した立場からレビュー意見を示すことである。GRIのアプリケーションレベルに関するチェックの目的は、富士通が行うGRIのアプリケーションレベルに関する自己宣言について、独立した立場から意見を示すことである。

1. 検証、レビュー及びチェックの概要

1) 2013年度の事業活動に基づく社会及び環境パフォーマンス指標に対する検証とレビュー

対象指標	訪問サイト	検証及びレビュー手続き
別紙1「対象とした社会パフォーマンス指標の一覧」に記載された全ての指標	・富士通 本社事務所 ・富士通 本店	・富士通本社によって策定された文書類の確認 ・責任者・担当者へのインタビュー ・収集・報告されたデータと提供資料との突き合わせ
別紙2「対象とした環境パフォーマンス指標の一覧」に記載された全ての指標	・富士通 本社事務所 ・富士通 本店 ・富士通 長野工場 ・FDK 株式会社 ・株式会社しんがけ富士通 ・FUJITSU TECHNOLOGY SOLUTIONS (HOLDING) B.V.	・富士通本社及び訪問サイトによって策定された文書類の確認 ・責任者・担当者へのインタビュー ・データの計測方法に関する現場査察 ・収集・報告されたデータと提供資料との突き合わせ

検証は、現時点での最良の事例に基づき、ビューローベリタスが定める非財務情報報告に対する第三者検証の手順とガイドラインを使用して実施された。ビューローベリタスは、本報告書に示された範囲に対して限定的保証を行うにあたり、国際保証業務基準(ISAIE)3000を参考にした。

2) GRIのアプリケーションレベルに関するチェック
ビューローベリタスは、以下の手続きによりチェックを実施した。

- ・富士通によって作成された資料の確認
- ・富士通の関連する担当者への質問

2. 検証、レビュー及びチェックの結果

1) 2013年度の事業活動に基づく社会及び環境パフォーマンス指標に対する検証及びレビュー
上述した手続きと活動によれば、検証又はレビューの対象となったパフォーマンス指標が、著しく正確性を欠いている、及び富士通が策定した基準に従って報告されていないと認められる事項は発見されなかった。

2) GRIのアプリケーションレベルに関するチェック
上述した手続きと活動によれば、レポートにおけるGRIのアプリケーションレベルに関する自己宣言「B+」が、GRIが定める基準に適合していないと認められる事項は発見されなかった。

ビューローベリタスは、全社員の日常業務活動において高い水準が保たれることを目指すためのビジネス活動にわたる倫理規定を定め、特に利害の対立を避けることに配慮しています。富士通株式会社に対するビューローベリタスの活動は、サステナビリティ報告に対するものだけでなく、数々の検証業務がならん利害の対立を回避することはいわゆる「B+」と考えます。

別紙 1

対象とした社会パフォーマンス指標の一覧

検証対象指標	ページ
ISO26000 を活用した CSR 活動	26
ISO アンケート対象範囲(グループ会社数等の数値)の実績	
女性リーダー育成プログラム受講者数	31
グローバルなビジネスリーダーの育成	31
関連教育プログラム受講者数	
富士通における各種制度の利用実績	31
育児休暇取得者、妻の出産休暇取得者の実績	
女性幹部社員比率	34
障がい者雇用率	34
従業員数、平均年齢	35
新卒採用者数	37
地域別従業員数	37
平均勤続年数	37
制度利用者数	38
度数率(災害発生率)	40
報告書アンケート実施状況(回答者数)の実績	43
近隣住民との定期的なダイアログ実施状況(回数)の実績	43
地域社会貢献活動に関する社内データベース登録件数	43
お取引先とともに「CSR 調達の推進」(書面調査社数)	53
従業員数、取締役数	77

別紙 2

対象とした環境パフォーマンス指標の一覧

検証対象指標	ページ
新製品のなかでエネルギー効率トップレベルである製品が占める割合	18
新製品の資源効率の向上率	20
事業所における温室効果ガス(CO ₂ ・CO ₂ 以外)の排出量	27
輸送 CO ₂ 排出量 ※富士通(株)および国内グループ会社	31
水使用量	36
PRTR および VOC の排出量	37
廃棄物発生量	
廃棄物有効利用率	38
INPUT(開発設計・調達・製造)	
水	
エネルギー	
化学物質	
大気排出 温室効果ガス合計	
大気排出 CO ₂	
大気排出 CO ₂ 以外の温室効果ガス	
廃棄物発生量	
サーマルリサイクル量、マテリアルリサイクル量	
廃棄物処分量	
OUTPUT(開発設計・調達・製造)	52
OUTPUT(物流) 大気排出 CO ₂ ※富士通(株)および国内グループ会社	
Scope3(上流)輸送・配送 ※富士通(株)および国内グループ会社	
Scope1(自社)直接排出	53
Scope2(自社)エネルギー起源の間接排出	
Scope1 および Scope2 のエネルギー使用量	54

レビュー対象指標	ページ
ICT の提供による温室効果ガス(GHG)排出量の削減貢献量	15
輸送における売上高あたりの CO ₂ 排出量の削減率	31
輸送 CO ₂ 排出量 ※海外グループ会社	31
太陽光発電設備の新規導入量とグリーン電力の購入量	34
事業系使用済み ICT 製品の資源再利用率および処理量	40
ISO14001 に基づく EMS 構築・運用会社数	42
内部監査および外部監査の実績	42, 43
環境会計	
環境債務	51
INPUT(開発設計・調達・製造)	
原材料	
化学物質	
INPUT(物流) エネルギー	
INPUT(使用) エネルギー	
INPUT(回収/再使用・再利用) 資源再利用率	
INPUT(回収/再使用・再利用) 処理量	
OUTPUT(開発設計・調達・製造)	52
大気排出 CO ₂ 排出量	
OUTPUT(物流) 大気排出 CO ₂ ※海外グループ会社	
OUTPUT(製品使用時)大気排出 CO ₂	
Scope3(上流)輸送・配送 ※海外グループ会社	53